

第36回平和憲法を守る 神奈川県民集会

侵略戦争を語る

—鬼から 人間に—

日本が中国からアジア・太平洋へと侵略を拡大した12月8日から65年目の12月を迎えます。あの戦争は「遠い過去」に追いやられようとしています。侵略の事実を認めない政治家たちと、事実そのものを知らなさすぎる現実にも助けられて時代の流れは決していい方向には向かっていません。「歴史認識」を語る場合はそもそも歴史の事実を知らなければなりません。中国や東南アジアへかつて日本軍が侵略し、人的、物的に甚大な被害を与えたという事実がどこまで知られているのでしょうか。

あの戦争で戦死者を含めた日本国民の犠牲者は300万人といわれています。だが中国では一国だけで1200万人といわれているのです。そのすべてを日本軍が中国の人たちに犠牲を強いてきたわけであります。心からの反省無くして真実は語れません。遼寧省の撫順と山西省の太原の2カ所の戦犯管理所で中国側の恨みを越えた人道的な扱いを受けて、「鬼から人間」に立ち戻った「中帰連」の方たちの語る真実の意味は重い。日本の侵略によって大きな被害を受けたにもかかわらず、報復的な戦犯裁判を行わなかったことは、暴力の連鎖を断ち切ることの可能性を教えてください。今や皆さん年を重ねられています。自分の目と耳で真実を確かめる機会は時間とのたたかいです。

日時 12月9日(土) 18:30～

場所 県民サポートセンター304

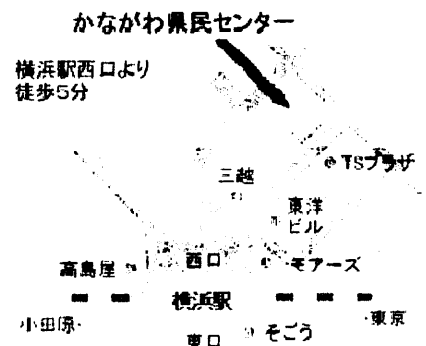
(JR横浜駅西口より 徒歩5分)

講師 絵鳩 毅さん(元中国帰還者連絡会)

「私が犯した戦争犯罪」

※資料代・会場費 500円(会員300円)

開催協力券(300円)で参加できます。



主催 かながわ平和憲法を守る会

代表委員 伊藤 成彦(中央大名誉教授)
中野 新(弁護士・厚木訴訟弁護団)

連絡先 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民活動サポートセンター内238

TEL 090-11056980 e-kaihou@ezweb.ne.jp

問い合わせ 090-2542-0413 吉田 akira-yo.manabu@docomo.ne.jp

042-797-7486 (FAX共) 瀬川 e-kaihou@nifty.com

協賛 かながわ憲法フォーラム

事務局 横浜市西区藤棚町2-197 神奈川高教組気付

絵鳩毅さんのプロフィール

- ・絵鳩さんは1913年生まれで、現在93歳です。
- ・水戸高校を経て、東京帝国大学に入学。和辻哲郎教授に師事して倫理学を学んでこられました。
- ・卒業後、親友梅本克己に誘われて文部省に入省しました。
- ・そこで、自分が尊敬する河合栄二郎教授の思想調査を命ぜられて間もなく文部省を退職されました。長野の高校教師をしている1941年に召集されて中国戦線での侵略戦争に投入されたのは28歳の時でした。
- ・以後3年余りの軍隊生活を主に山東省で作戦に従事させられました。
- ・北朝鮮で敗戦を迎えた絵鳩さんはその後ソ連軍の捕虜として5年間、厳寒シベリアに抑留されて強制労働に従事させられました。
- ・さらに戦犯として中国の撫順戦犯管理所で6年間過ごされてきました。
- ・1956年、起訴を免除されて帰国されたときは43歳になっておられました。
- ・帰国後は高校教師を経て、藤沢市内の郵便局長を定年まで勤められました。以後本格的に「中帰連」の活動に参加されて、「中帰連」常任委員長の任にも当たってこられました。

撫順戦犯管理所で

撫順戦犯管理所はかつて「反満抗日分子」を収容するために小菅刑務所をモデルに日本軍が作った監獄で、当時は拷問を受けた中国人たちの悲鳴が絶えなかったところでした。

戦後5年が経過した1950年にソ連から引き渡される日本人戦犯を収容するために大改造を行い、各部屋にスチームを通し、清潔な炊事場をつくり、診療室や理髪所などあらゆる設備を整えて準備されていました。

設備面だけではない。管理所側は徹底した人道的な管理で望んだのです。「戦犯とは何事だ！」と怒鳴る日本人戦犯にも決して罵ることはなく、「戦犯たちの人格を尊重せよ」「一人の死者も出させない」という指導は徹底していました。食事も自分たちはコウリャンを食べながら日本人の食生活に合わせて白い米の飯を3度3度食べさせて、シベリアでは考えられない待遇に戸惑っていたそうです。

約1年遊ぶだけ遊びほうけて、徐々に自分を見つめ直そうとするまでにさらに数年の時間が必要だったのです。

中国側はどこまで忍耐強かったのか。ようやく自分たちの過去をふり返り、旅人がマントを脱ぐように徐々に人間性を取り戻し、6年後の裁判ではほとんどの人が起訴免除の判決を受けて帰国の途に着くことができました。死刑判決は一人もありませんでした。

今もかつて戦犯だった「中帰連」の方たちと管理所の職員たちとは「平和のための同志」として固い絆で結ばれています。憎しみと報復の連鎖を断ち切った歴史的事実がここに存在しています。